

経営(継業)のツボ

理念



転期に立つ経営者の資質の鍛え方⁵⁵

ばんしょうぐとく 万象具徳

早川浩士

有限会社ハヤカワプランニング代表取締役

はやかわ・ひろし
経営コンサルタント。1991年に独立。介護事業に関する独自の調査に基づいたデータ分析を各誌・紙に発表。著書に「早川浩士の常在学場」(筒井書房)、「介護人財創造塾」(筒井書房)、「介護保険改正に勝つ!経営」(年友企画)、「データで徹底分析 介護事業の最新動向と経営展望」(日本医療企画)など。
http://www.hayakawa-planning.com
ブログ: http://ameblo.jp/hayakawa-planning/

手本は二宮金次郎

神奈川県内の全公立小学校約860校中143校には、今も金次郎像が建つ。出生地の県西部では、54校中32校と群を抜く*。

金次郎とは、二宮尊徳のこと。

1787(天明7)年、小田原藩

内の足柄郡柏山村(現在の神奈川県

小田原市柏山)に生まれ、600余

もの荒廃した農村復興に尽力*。

1903(明治36)年から19

45(昭和20)年までの間修身の

教科書に取り上げられ、1958

(昭和33)年まで使われた1円札の

最後の肖像画になった人だ。

金次郎像といえは、薪を背負っ

て本を読んでいる「負薪少年の像」

が定番。作家幸田露伴の書いた著

書に出てくる挿絵を基にしたと言

われているが、小田原の小学校に

は、薪を背負うも石に腰掛け本を

読む像(桜井小)、菅笠を肩につけ

て、自ら編んだ草鞋を差し出す姿

の像(報徳小)などもある。

グループホームなど介護施設に

足を運んだ際、1911(明治44)

年に制定された尋常小学唱歌「二

宮金次郎」を披露すると、何度も

繰り返される。手本は二宮金次郎。

のフリーズから、忘れかけた記憶の扉が開きだす利用者さんは少なくない。歌を覚えていてる人、唄いだす人までいる。

一 柴刈り縄ない 草鞋をつくり

親の手を助け 弟を世話し

兄弟仲よく 孝行つくす

手本は二宮金次郎

二 骨身を惜まぬ 仕事をはげめ

夜なべ済まして 手習読書

せわしい中にも 携はず学ぶ

手本は二宮金次郎

三 家業大事に 費をはぶき

少しの物をも 粗末にせず

遂には身を立て 人をも救う

手本は二宮金次郎

あらゆるものに徳がある

小田原藩主大久保忠真から分家

の財政再建を任せられ、10年かけて

大任を果たした尊徳は、「物や荒地

地には荒地なりの徳(良き、取り

柄)があり、荒地の徳を人の徳が

活かすことで、実り豊かな田畑に

変えてゆくことができました」と、

その成果を藩主に報告した。

これを聞いた殿様は「そのやり方

方は『論語(憲問14)』にある、徳

を以って徳に報いる」という、あ

れだな」と言われたという。

尊徳はこの言葉に感激し、その後、「報徳」という言葉を中心に据えて、自身の考え方を練り上げていくようになる。

後に報徳博物館初代館長を務めた佐々井典比古は、尊徳のあ

らゆるものに徳があるという「万

象具徳」の考え方を、次の詩を使

ってわかりやすく表現した。

どんなモノにも良きがある

良さがそれぞれ皆違う

良さがいっぱい隠れてる

どこか取り柄があるものだ

モノの取り柄を引き出そう

人の取り柄を育てよう

自分の取り柄を捧げよう

取り柄と取り柄が結ばれて

この世は楽しい不壊世界

荒地という有限の資源を有効

に活用すれば無尽蔵に作物を生

み出すことができるよう、人に備

わる良き、取り柄、持ち味を活か

すことができるか否か、介護人財

の育成も同じことが言える。

最も変わらなければならぬ

のは、言うまでもなく、人の手本

となることを率先垂範しなければ

ならないトップの姿勢にある。

介護現場は、人で変わる。

*1: 神奈川新聞2010年4月19日号 *2: 本誌2005年2月号本欄参照